

■鶴峯戊申 特異な究理学者。博覧強記で開明的、他に先駆けて地動説による著作を成したほか、多分野で膨大な著作。

つるみねしげのぶ

・ ・ ・ ・ ・ 1788＝ 豊後国臼杵で、郷社八坂神社神主鶴峯宜綱の長男に生まれる。

松平定信引退1793＝ 5歳：

幼年の頃より父に和漢の学・古訓古文辞学を学ぶ。

昌平黌始・ ・ 1797＝ 9歳：

のち臼杵藩儒武藤吉紀に師事する。

膝栗毛始・ ・ 1802＝14歳： 本居宣長の著書に啓発され、国学に傾倒し始め、

いざノ来航・ 1804＝16歳： 京都へ上り、藤貞幹の門人山田以文・小山田(高田)与清・平田篤胤らに国学を学ぶ。

また、和歌を綾小路俊資について習う。その後しばらく郷里に戻っていたが、

いざノ報復・ 1806＝18歳： 再び京都へ赴き、安倍(土御門)家塾に入門し天文学を学び、

フェートン号事件 1808＝20歳： 異称皇朝風土記」成る。

浮世風呂・ ・ 1809＝21歳： *さらに、先進地動説を学んで、それが「古事記」や「日本書紀」の説くところと同じであることを知ると、沖野氏の女と結婚し、大坂立売堀や難波新地に移って家塾を開き、それにより生活する。

博覧強記で和漢のみならず、仏教や蘭学にも通じ、地動説にも理解をもった。国学では音韻に通暁。

・ ・ ・ ・ ・ 1815＝27歳：

伊能測量終・ 1816＝28歳： 「本教異聞」「和漢年代人物一覧」刊。 大坂に下り、以後、甲斐・和泉・紀伊・近江・尾張・三河などの諸国を転々としながら、

水野忠成老中 1818＝30歳： 「墨色小笙」刊、西洋天文学と日本古典との調和を模索して、

・ ・ ・ ・ ・ 1820＝32歳： 「救貧竈卦偉要注」、

蝦夷地直轄終 1821＝33歳： 「天の真はしら」、

膝栗毛終・ ・ 1822＝34歳： 「名判集成」。 「古義神代考」、

いざノ来日・ 1823＝35歳： 「古調梯」、

いざノ鳴滝塾 1824＝36歳： 「天体実動図」、

異国船打払令 1825＝37歳： 「徴古究理説」、

・ ・ ・ ・ ・ 1826＝38歳： 「新式算盤」、

日本外史・ ・ 1827＝39歳： *代表作のひとつ「徴古究理」、この前後に、もう一つ「究理或問」と、続々刊行。

いざノ事件・ 1828＝40歳：

この間、語学の研究にも励んで、「早引蘭学通」「語学究理九品九格総括図式」刊、国語学では「詞の品定」などを著わした。

鼠小僧磔・ ・ 1832＝44歳： 江戸に居を移し、家塾究理塾を中橋南大工町に開き、和漢の訓詁学と蘭学を教授。

天保大飢饉始 1833＝45歳： 「語学新書」刊、原著ジョン・ケール(英)の蘭訳からの重訳「歴象新書」(志筑忠雄訳)を用いて天文学をも教えた。また、門弟の奥村喜三郎によって高野長英・渡辺崋山の学を知り、「三才究理頌二百五十二韻」刊、

・ ・ ・ ・ ・ 1836＝48歳：

大塩平八郎乱 1837＝49歳： 適塾ホヰン・ 1838＝50歳： 「梵語新訳」成る。*鍋田三善の推挙で、水戸藩主徳川斉昭の知遇を得、江戸小石川に新設された和書編集所にも出仕。立原杏所を通じて、会沢正志斎にまで影響を及ぼす。

天保改革弾圧 1842＝54歳：

順天堂始・ ・ 1843＝55歳： 「詩文類語」刊、

天保改革終・ 1844＝56歳： 「史伝摘抄」「大日本年歴付箋」刊、

阿部正弘首座 1845＝57歳：

・ ・ ・ ・ ・ 1848＝60歳： 「神代文字考」刊、

北斎没・ ・ ・ 1849＝61歳： 「内密答問録」を著わして斉昭に献上、外国との通商・外交の促進を建言している。

国定忠治磔・ 1850＝62歳： 会沢正志斎が25年前に著した「新論」を批判して「新論新評」を著し、理想的な新町づくりとその政策論まで示している。

尊徳報徳論・ 1851＝63歳：

ペリー来航・ 1853＝65歳： ペリー来航に、アメリカの地誌を記した「米利幹新誌」を刊行、

開国開港・ ・ 1854＝66歳： 「新町開発存寄書」成る。

安政大地震・ 1855＝67歳： 「洋語背誦歌」、

松下村塾・ ・ 1856＝68歳： 藩士に列せられ、

蕃書調所・ ・ 1857＝69歳： 「和蘭熟語集初編編」刊、

五ヶ国条約・ 1858＝70歳： 「大成和漢年代記編」、

安政の大獄・ 1859＝71歳： 没した。